

第5学年社会科学学習指導案

指導者 陸前高田市立小友小学校
教諭 川原 一人

1 単元名 わたしたちの食料生産 「水産業のさかんな地域」

2 小單元について

(1) 教材について

本小單元は、小学校学習指導要領社会科第5学年の内容の(2)のウ「食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き」を受けて設定されたものである。水産業の盛んな地域の自然条件や水産業に携わる人々の具体的な作業の工夫や努力、願いなどを調べ、そこから日本の水産業の現状や課題へと視野を広げていく単元である。

日本は周りを海にかこまれた島国であり、古くから様々な形で水産物を食してきた文化を持っている。水産業は農業と並び、国民の食糧を確保するという重要な役割を果たしている。しかし、自然環境の変化や他国との経済水域問題、後継者不足など日本の水産業を取り巻く問題は多い。そのような中でも水産業に携わる人々は、質のよい水産物を提供するために安全性や鮮度を保つ工夫、水産資源や自然環境を守る取り組みを続けている。その工夫や取り組みを学ぶことは、食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働きを捉える上で適した教材であるといえる。また、陸前高田市は平成23年3月1日に発生した東日本大震災により甚大な被害を受けた。カキ養殖に携わる生産者も震災前の三分の二程度に減少してしまった。しかし、水産業の復興を願う人たちの努力で復旧が進み、築地市場において平成28年度から2年連続で日本一の価格で取引されるようになった。そのような産業の復興への努力も合わせて捉えていくことで、自らの生活と食料生産とを身近に感じ、実感の伴った理解へと繋げることができると考える。

(2) 児童について

児童は、陸前高田市の水産業について、3年生の「もっと知りたいみんなのまち」において港のある所の様子を学んでいる。また、前単元の「わたしたちのくらしと国土」や前小単元の「米づくりのさかんな地域」の学習で、自然環境を生かしつつ、より良いものをつくらうとしている生産者の工夫や努力について調べることで、産業を営む人々の願いについて学習してきた。学習問題を解決するために資料から事実を読み取り、積極的に発表するなど社会科の学習に意欲的な児童も多い。

東日本大震災から復旧・復興していく過程については、前小単元の「米づくりのさかんな地域」と本校の総合的な学習の時間の単元である「小友の産業の復興」において、震災後の水田の復旧や地域ブランド米である「たかたのゆめ」について学んでいる。しかし、これらの多くは部分的な知識と理解に留まり、震災からの復興が産業の枠を超えた社会的な事象として捉えられているとは言いがたい。また、事実を関連付けて考える点については十分でない子が多く、学習問題に対して出てきた予想を集約したり、調べた複数の事実を関連付けて、わかることを見出したりすることを苦手とする児童がいる。

(3) 指導について

教科書の内容とは別に「育てる漁業」の分野において「カキ養殖」を取り扱う。また、本校の総合的な学習の時間の単元である「小友の産業の復興」との関連を図り、自分たちの地域の様々な産業が復興してきていることや、それに携わる人々の営みについても学んでいく。

単元の導入にあたっては、身近な水産物の産地を調べ、主な海流と水あげが多い漁港との関係などについて考えることを通して単元の学習問題を設定する。展開場面では、「鮮度や安全性を保つための工夫」、「ブランド化」、「水産資源の減少」を中心に学習を進めていく。陸前高田市のカキ養殖を取り上げ、他の地域に負けないカキを生産するための工夫や努力、震災からの復旧がどのように進められたかを調べていく。単元の終末では、水産資源や自然環境を守り、その大切さを伝えていく活動が為されていることを学び、水産業の概観をまとめていきたい。

思いや考えを生かす言語活動については、単位時間ごとのふり返りの時間に、学習問題に対する自分のまとめをグループで交流する時間を設ける。そうすることで自分の考えの広がりや、友達の考えの良さを実感させていきたい。また、児童にとって身近な地域素材を活用することで学習問題への追究意欲を高め、総合的な学習の時間への興味・関心の持続を図り、将来を含めた社会参画の意識へとつなげていきたい。

3 小単元の目標

- (1) 自分たちが食べている水産物の産地や日本の水産業について関心をもって意欲的に調べ、自分たちの食生活を支えている水産業が今後どのように変わっていくとよいかを考えようとしている。
【社会的事象への関心・意欲・態度】
- (2) さんま漁の様子から疑問に思ったことや調べたいことを考え、表現している。また、水産業に携わる人々の仕事の工夫や願い、安定して水産資源を確保していくために必要なことなどについて、資料や調べたことをもとに考え、適切に表現している。
【社会的な思考・判断・表現】
- (3) 水産業に関する写真や地図、統計などの資料を目的に合わせて収集・選択し、的確に読み取っている。
【資料活用の技能】
- (4) 日本の水産業が盛んな地域の様子や、水産業に携わる人々の仕事の工夫、日本の水産業の現状や安定的に漁業を進めていく養殖業や栽培漁業の取り組みについて理解している。
【社会的事象についての知識・理解】

4 小単元の指導計画 (全8時間)

単元を貫く学習問題 ◎水産業が盛んな地域では、どのような工夫や努力をして水産物を消費者に届けているのだろう。			
時	目 標	学 習 活 動	評価規準と評価方法
1	・自分たちの食べている水産物の名前や産地を調べ、日本の水産業について興味や関心をもち、調べようとする意欲をもつことができるようにする。	・身近な水産物の産地を調べるとともに、主な海流と水あげが多い漁港との関係などについて考えることを通して、学習問題をつくる。	・自分たちが食べている水産物が、どこで、どのようにしてとられているのか、関心をもって調べようとしている。 【関心・意欲・態度】 (発言・行動観察)
2	・さんまをとる仕事の様子から、さんま漁について調べたいことを話し合い、様々な工夫をしながら漁をすすめていることを捉えられるようにする。	・さんま漁について、イラストの読み取りをもとに調べることを決めたあと、様々な資料をもとに漁や鮮度を保つための工夫について具体的に調べる。	・漁の様子から疑問に思ったことや調べたいことを考え、さんま漁の工夫や、鮮度を保ったまま運ぶための工夫について調べたことを表現している。 【思考・判断・表現】 (発言・ノート)
3	・港の様子や出荷に向けての仕事を調べ、出荷に携わる人々の工夫や努力、出荷にかかる費用と値段の関係について、捉えることができるようにする。	・写真や働く人の話を通して、根室港の水あげされたさんまのゆくえについて調べ、加工工場働く人たちの工夫や努力、値段の決まり方やかかる費用などについて話し合う。	・水あげしたさんまを新鮮なまま出荷するために、様々な仕事の工夫や努力があることや、それらの作業には費用がかかること、さんまの値段の決まり方について理解している。 【知識・理解】 (行動観察・ノート)
4	・さんまが港から自分たちのもとに届くまでの様子を調べ、産地と消費地を結ぶ流通・輸送のはたらきについて捉えることができるようにする。	・さんまが産地から消費地までどのように運ばれるのかを資料をもとに調べ、運送会社の人たちの努力や工夫、輸送手段やかかる費用の違いについて考える。	・さんまが消費地に届くまでには、様々な仕事や輸送の方法があり、それぞれの輸送手段の利点を生かして、水産物が運ばれていることを資料から読み取っている。 【技能】 (発言・行動観察)
5	・北方領土と漁業の制限、水産資源の減少などについて調べ、漁業に携わる人たちの願いについて考えることができるようにする。	・根室港の漁業と北方領土の関係や、日本の漁業の現状について様々な資料を読み取って調べ、漁業に携わる人たちの願いについて考える。	・さんま漁師の話などから、漁業が抱えている課題について調べたことをもとに、漁業に携わる人たちの願いについて考え、表現している。 【思考・判断・表現】 (発言・ノート)

6	<ul style="list-style-type: none"> カキ養殖の1年間の仕事の様子について調べ、出荷までにさまざまな作業を行う必要があることを捉えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 広島県の1年間のカキ養殖の仕事の様子について、具体的な資料をもとに調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> カキが出荷されるまでには、1年かけてさまざまな仕事があることを理解している。【知識・理解】(発言・ノート)
7 本時	<ul style="list-style-type: none"> 育成方法を工夫し、品質や信頼を大切にしながらカキ養殖をしている佐々木さんの工夫や努力に気づくことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> なぜ3年も時間をかけているかについて、様々な資料を読み取りながらカキ養殖に携わる人たちの工夫や努力について調べ、願いについて考える。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈生かす〉学習問題と、震災からの復旧を果たし、よりよいカキを育てるために工夫や努力を続けている生産者が身近にいることに対して、自分の考えをまとめて発表する。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料から読み取ったことをもとに、他のカキに負けない養殖方法の工夫や震災津波から復興するための努力について捉えている。【思考・判断・表現】(発言・ノート)
8	<ul style="list-style-type: none"> 安定した漁業生産を目指し、植樹や森林の大切さを伝えるための取り組みについて調べ、今後の水産業のあり方について考えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 植樹や森林の大切さを伝えるための取り組みについて調べ、水産資源を守る努力や願いについて考え、これからの水産業について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 安定して水産資源を確保していくための様々な取り組みについて調べたことをもとに、これからの水産業のあり方について考え、表現している。【思考・判断・表現】(発言・ノート)

5 本時の指導

(1) 目標

- 大きく品質の良いカキを生産するための工夫や努力について調べ、震災から復旧するための苦勞を知ることを通して、カキ養殖に携わる人たちの願いについて考える。

(2) 評価規準

観 点	評 価 規 準
社会的な 思考・判断・表現	大きく品質の良いカキを生産するための工夫や努力について調べ、震災から復旧するための苦勞を知ることを通して、カキ養殖に携わる人たちの願いについて考えることができる。

(4) 板書計画

11/22 (木) | 広島湾のカキ養殖



① 広島湾に浮かぶイカダ

波がおだやかイカダに向いている



川からの豊富な栄養

佐々木さんは、なぜ3年もかけてカキを育てているのだろう。

800台のイカダ木を切り2年かけて手作業で

震災からの復旧

陸前高田の復興へ



カキ養殖をしている佐々木さん

本当に大きいのか？

1年物と3年物のカキ



・種目の異なるホタテ目につけるカキの数を減らす作業。(1つのホタテ目に10個程度)

栄養をたくさん吸収させる



・1畝 海製砂お湯につけることで、カキ以外のものを駆除する作業。

時間と手間

値段は？ 築地で日本一

大きいから高い？ 大きく、品質が良い



10kgあたりのカキの価格

産地	価格 (円)
宮城県産	20000
広島県産	20000
青森県産	35000
広島県産 (産地)	40000

卸売り業者の方のお話 (伊吹魚類の中村さん)

(3) 本時の展開

	学習内容及び活動	指導上の留意点・評価 (◎)	言語活動
問題の把握 7分	<p>1 前時の想起</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島湾と広田湾の自然環境と養殖年数を捉える。 <p>2 学習問題の提示</p> <p>佐々木さんは、なぜ3年も時間をかけてカキを育てているのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広島湾のカキ養殖について想起する。 ○広島湾に浮かぶイカダ (写真) ○広島湾と気仙川 (地図) ・広島産のカキ養殖との自然環境における類似点に気づかせる。 ○広島産と広田湾産のカキの養殖年数の比較 (グラフ) ・養殖年数の違いを捉え、なぜそんなに時間をかけているのかという問いを持たせる。 ・児童の言葉から学習問題を設定する。 	
問題の追究 30分	<p>3 予想の発表</p> <p>(1) なぜ時間をかけて育てているのかを予想し、発表する。</p> <p>4 学習問題の追究</p> <p>(1) 実物を使って大きさを比較する。</p> <p>(2) 佐々木さんのカキの値段について読み取る。</p> <p>(3) カキに高値がつく理由について読み取る。</p> <p>(4) 資料映像から3年かけて育てる理由と、震災から復旧するための苦労について聞き取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項や生活経験をもとに予想させ、「大きさ」「値段」という2つの観点に整理していく。 ・実物のカキを使って、佐々木さんの育てたカキの大きさを捉える。 (1年物のカキと3年物のカキ) ○「佐々木さんのカキ」(実物) ・資料から、築地市場における佐々木さんのカキの値段を読み取り、他の産地と比較して価値が高いことを捉える。 ○産地別のカキの値段 (グラフ) ・佐々木さんのカキに高値がつく理由を捉える。 ○築地市場の方のお話 (資料) ○大きく、品質の良いカキを育てるために (資料) ・時間の経過だけで大きく品質の良いカキになったのではないことに気づかせる。 ○資料映像 佐々木さんへのインタビュー ・800台のイカダを手作業で作る大変さや努力をつかむ。 ・他の地域に負けないカキ養殖の工夫や、震災から復旧するための苦労の陰には、生産者の復興への願いがあることに気づかせる。 	
まとめ 8分	<p>5 学習問題のまとめ</p> <p>(1) 学習問題の追究に対するまとめを書く。</p> <p>大きく品質の良いカキをつくるために3年間という時間をかけて育てている。震災からの復旧の裏側には、陸前高田の水産業の復興という強い思いがあることがわかった。</p> <p>(2) 自分の考えを発表する。 【記入例】</p> <p>震災を乗り越え日本一のカキを育てるための工夫や努力をしている生産者がこんなに身近にいたことに誇りを感じる。佐々木さんから学んだ工夫と努力の大切さと、あきらめない気持ちをこれからの生活に活かしていきたい。</p>	<p>〈言語活動：生かす〉</p> <p>学習問題と、震災からの復旧を果たし、よいカキを育てるために工夫や努力を続けている生産者が身近にいることに対して、自分の考えをまとめて発表する。</p> <p>◎大きく品質の良いカキを生産するための工夫や努力、震災から復旧するための大変さなどから、カキ養殖に携わる人たちの願いについて考えているか。(発言・ノート)</p> <p>【社会的事象についての思考・判断・表現】</p>	

